



2014 新春特別対談

新年あけましておめでとうございます。
平成26年がスタートしました。皆さんにとつて昨年はどんな年だったでしょうか。誰もが「昨年よりいい年にしたい」と願うもの。今年一年をいい年にするために、私たちの住む庄原市の動向は気になるところです。

新春号は、木山耕三市長と竹内光義市議会議長に、今年の市の動きやそれに対する思いなどを対談形式で伺いました。

※インタビュー：情報政策課広報広聴係

——うま年にかける思いを語る——

木山 耕三 市長



竹内 光義 市議会議長

昨年を振り返って印象に残っていることは何でしょうか—

市長 何よりもまず庄原市長として市政を任されたことです。その中で、特に印象に残っているのが市政懇談会に初めて臨んだことですね。市民の皆さんの思いにできるだけ応えたいという気持ちで出席し、多くの方からさまざまな質問をいただきました。私自身初めて聞くことも多く、庄原市が抱えている問題は広く深いというのを再認識しました。

議長 改選、新たなスタートの年でした。4月の市長、市議会議員選挙は私たちもそうですが、市民の皆さんの関心も高かった。新しく木山市長が誕生し、市民の皆さんも大きな期待を寄せています。議会では、議員定数が25人から20人になる中で、女性議員が2人誕生し、30代から40代半ばの若い議員も増えたので、雰囲気が変わりました。

ここまでの市政・市議会運営の中で感じたことは—

市長 過疎、少子高齢化をはじめとする多くの課題を、職員はもちろん、議会も市民の皆さんも何とかしよう

という熱意をあらゆる場面で感じました。市民を挙げて取り組んでいた産科医療再開への動き、基幹産業である農業への意欲の向上など、自分たちでできることを取り組もうという熱意が、皆さんの中に生まれてきているというのが実感としてあります。その熱意が着実に根付き、農業の6次産業化につながる動きへと広がり、それが観光にも結びついていけばと期待しています。

議長 継続的な課題は多く残っていますし、早期に解決しないといけない問題があります。特に木質バイオマス関連事業の問題は、はっきりとした道筋をつけなければいけない時期に来ています。このことは改めて市長、執行部と協議しながら、できるだけ早く決断していかねばなりません。常日頃から成長する議会を掲げ取り組んでいます。新しい年も市民の皆さんの声に常に耳を傾けて、市民感覚を大切にしたいと議会運営に努めていきます。

26年度中には尾道松江線が全線開通する予定ですね—

市長 昔から言っていた三海二山がいよいよ実現します。この道ができ





ることで太平洋、四国山脈、瀬戸内海、中国山地、日本海がつながり、移動時間が大幅に短縮される。これはかつてないほどの大きなチャンス。本市が中国山地の中心的な観光地になるよう、庄原市の魅力を広く発信していきたいと思っています。

議長 私もその点は大いに期待しています。現在「道の駅たかの」には多くの観光客おいでいただいておりますが、出雲大社の大遷宮が重なったことなどもあり交通量が多かったのだと思います。市民の皆さんも心配されている点が、通過点になってしまわないかということ。庄原市を目的地にしてもいい、足を運んでいただける取り組みがさらに必要でしょう。

市長 市をPRする観光大使を増や

網が、ようやく整備に取りかけられるところまでできました。大容量の通信や防災行政無線を引くだけでなく、携帯電話のつながらない地域の解消も同時に行うことで、情報過疎の解消につなげたいと思います。特に携帯電話は、いまや高齢者にとっても必需品です。これらも含めぜひ議会の中でも議論していただきたいですね。

議長 多くの議論がありますが、市民の皆さんも期待している事業ですし、議会でもしっかりと議論を行っています。高速情報通信網の必要性は十分認識しています。議会で執行者の話をしっかりと聞いて、市民の負託に応える成長する議会として、これまで以上に頑張っていきたい。市民の安全安心な暮らしにつながるよう、市長には力を発揮していただくことを期待しています。

したいと思っています。市内出身の著名人の方にも協力いただければPR効果は大きいですからね。

議長 漫画家の瀬尾公治さんなどいいのでは。若い人にあれだけ人気があるのはすごい。市内で漫画教室を催されたことなどはあまり知られていないし、そうした企画に取り組みされた方がいらつしやることも知らない人は多いと思いますね。光る素材があるのに知られていないのは残念ですし、みすみすチャンスを逃しているところもある。そうした部分もしっかりPRすれば、全国から注目される庄原市になると思います。

市民の関心が高い超高速情報通信網整備は—

市長 市民の念願の超高速情報通信

最後に一言—

市長 今年が本当のスタートだと思っておりますし、正念場です。庄原いちばん基本計画に盛り込んだ事業や施策を一つ一つ着実に実施し、しっかりと芽を出さなければいけないと思っております。そこに至る考えや思いを市民の方にもお伝えし、皆さんに協力してもらえよう取り組んでいきたいと思っております。

議長 私たち庄原市に住む者が、いかに庄原が好きでこの地域に誇りを持つのかだと思えます。そうした思いを持つ市民をまちづくりに巻き込む。そして市、市民、市議会が一つになり、まちづくりに取り組みなければ、時代から取り残されていくと思います。そのために議会も大いに汗をかきます。

年頭にあたり今年の一文字

を選んでいただきました。



『心』は人間の一番の基本です。東日本大震災の復興を願って、日本国民が心一つにオールジャパンとして支援する姿に大きな勇気をもらいました。私自身、寛容な心で常に皆さんの気持ちをお聞きし、市民の皆さんのためにしっかりと決断する心を持ちたい。そうした思いをこの字に込めました。



『経』には、常に一定している、不変という意味があります。市民の皆さんの期待に応えるべく、皆さんの気持ちを優先的に考えて市政運営を行っていきたい。その思いは、昨年4月に市長に選んでいただいたときから一貫して変わりありません。それは年が変わろうとも、私の思い、筋道、道理は変わらないという思いをつづりました。

